



おがさわらしまんけいず  
「小笠原島真景図」



「マールン船」

# 漂流者たちと 日本の領土の歴史

2022 6/3 金 — 6/12 日

日本の島々をめぐる  
苦難と発見と交流の物語

同時開催 北方領土・竹島・尖閣諸島パネル展



「歯舞群島 多楽小学校の大運動会」



「竹島におけるアシカ猟」



「尖閣諸島魚釣島のカツオ節工場」

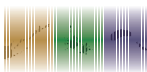


「大黒屋光太夫と磯吉」

入場  
無料

会場 JR大阪駅・大阪ステーションシティ 5階「時空の広場」

開催時間 11:00 ~ 19:00 主催 内閣官房 領土・主権対策企画調整室



領土・主権展示館  
NATIONAL MUSEUM OF  
TERRITORY AND SOVEREIGNTY



内閣官房 領土・主権  
対策企画調整室  
Office of Policy Planning and Coordination  
on Territory and Sovereignty

<https://www.cas.go.jp/jp/ryodo/tenjikan>

@ryodoshuken Twitterやっています

※詳細はホームページをご覧ください。



【所在地】東京都千代田区霞が関3-8-1 虎の門三井ビルディング1階 【電話番号】03-6257-3715

上段左から「西 12月19日初見小笠原島圖」宮本元道「小笠原島真景圖」(国立国会図書館所蔵) / 「琉球船の図」(沖縄県立博物館・美術館所蔵) 下段左から「歯舞群島 多楽小学校の大運動会」(千島歯舞諸島居住者連盟提供) / 「竹島におけるアシカ猟」(島根県竹島資料室提供 (大阪朝日新聞社撮影)) / 「尖閣諸島魚釣島 (1908年頃)」(那覇市歴史博物館提供) / 「大黒屋光太夫と磯吉」桂川甫周 (国編) / 「吹上秘書漂流民御覧之記」(北海道大学附属図書館所蔵)



# 漂流者たちと日本の領土の歴史

2022 6/3(金) - 6/12(日) | 日本の島々をめぐる苦難と発見と交流の物語

前近代、航海技術が未発達だったころ、日本及びその周辺で多くの漂流事件が発生しました。漂流の末に我が国ではあまり知られていなかった島に漂着し、日本人の日本周辺の島々に対する認識が深まったり(「地理的理解の深化」、漂流者が外国に漂着し、救援の手が差し伸べられる中で、国際的な「接触」や「交流」が生まれ、その中で領有権に影響を与える出来事が発生したりすることがありました。

我が国固有の領土である北方四島、竹島及び尖閣諸島についても、その歴史を振り返ると、多くの漂流をめぐるエピソードがあります。また、江戸時代、鳥島や小笠原諸島への日本からの漂流者の漂着が、両島の領有や開拓のきっかけとなっています。

この展示は、漂流事件の紹介を通じて、我が国の領土に関する歴史を振り返ろうとするものです。

## 展示構成

Prologue 江戸時代の国際情勢と漂流

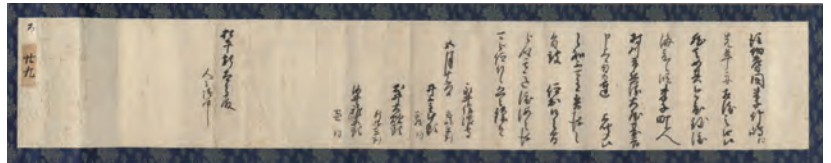
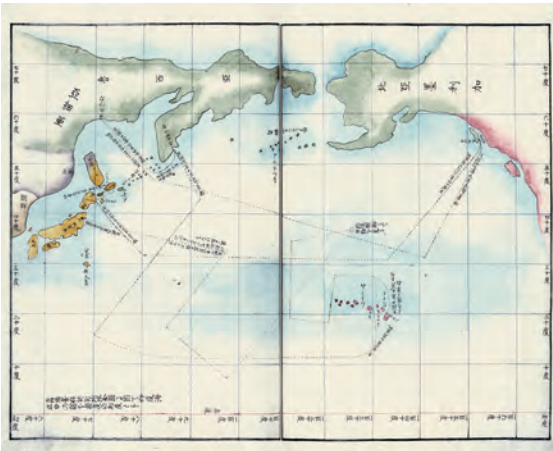
Chapter 3 尖閣諸島

Chapter 1 北方四島

Chapter 4 鳥島・小笠原諸島

Chapter 2 竹島

## 展示資料のご紹介

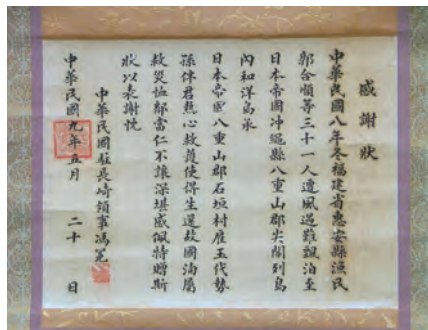
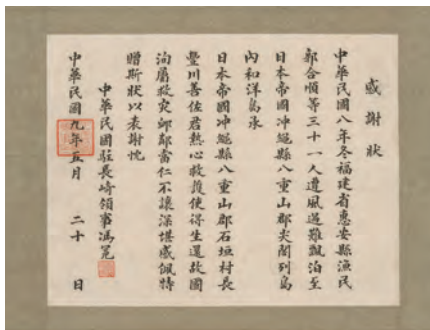


上: 竹島渡海御免の達書(写)(米子市立山陰歴史館所蔵)[複製品展示]

1618年(1625年の説もある)、将軍が大谷、村川両家による鬱陵島(当時の名称は「竹島」)渡海を許可したことを伝える文書の写し。鬱陵島渡海の願い出のきっかけは、大屋(谷)甚吉の鬱陵島漂着でした。

左: 『時規物語一』首巻より漂流図  
(公益財団法人前田育徳会所蔵)  
[複製品展示]

加賀藩主の命により、1838年に漂流した越中(現:富山県)の「長者丸」の乗組員の供述に基づき遠藤高環が編纂。択捉島までが日本本土と同じ色で塗られています。



「母嶋南手之山上喫午飯圖」宮本元道「小笠原島真景圖」  
(国立国会図書館所蔵)[パネル・映像展示]

1861年、小笠原島に派遣された幕府調査団に参加した宮本元道によるもの。幕府の小笠原島調査は1675年に引き続き2度目でしたが、最初の調査のきっかけは漂流です。

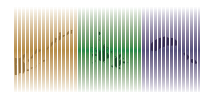
尖閣列島遭難中華民国感謝状 豊川善佐氏宛(左) 玉代勢孫伴氏宛(右)  
(石垣市立八重山博物館所蔵)[パネル展示]

尖閣諸島に漂着した中国の漁民の救助に対し中華民国駐長崎領事官が1920年に日本側に送付した感謝状。  
「日本帝國沖繩縣八重山郡尖閣列島」と記されています。

\* コロナ感染予防への対策を徹底するため、手指消毒や検温等にご理解とご協力をお願いいたします。

\* この展示は、有識者の助言などを得て作成したものであり、必ずしも政府の見解を表すものではありません。 \* 展示内容は予告なしに変更される場合があります。

同時開催 北方領土・竹島・尖閣諸島パネル展



領土・主権展示館  
NATIONAL MUSEUM OF  
TERRITORY AND SOVEREIGNTY